

# 平成 29 年度 「多文化子育てサークルによる言語習得促進事業」 報告書

○事業概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P 1

○実施結果

1 特定非営利活動法人みらい（知立市）・・・・・・・・P 2

2 特定非営利活動法人トルシーダ（豊田市）・・・・P 12

# 事業概要

## 1 内容

外国人乳幼児の親子による「多文化子育てサークル」を設置し、このサークル内で子育てに関する意見交換や親子遊びを行うとともに、平成 28 年度に実施した「子育て外国人の日本語習得モデル事業」の成果を踏まえ、「外国人の乳幼児期における言語習得に大切なポイント」（以下、参考参照）や母子保健・保育所の制度など、日本で子育てをするために大切な事項を伝えながら、子どもの成長に従って保護者に求められる日本語能力を育成することを目的とした「多文化子育てサークルによる言語習得促進事業」を実施した。

## 2 実施方法

以下の2団体への委託により実施。

### 【委託先】

特定非営利活動法人みらい（知立市）

特定非営利活動法人トルシーダ（豊田市）

## 3 スケジュール

平成 29 年8月から平成 30 年2月までの間に、各団体が7回ずつ開催

### 参考：外国人の乳幼児期における言語習得に大切なポイント

- ① 子どもには、「親が自信を持って話せる言語」で話しかけましょう
- ② 積極的に子どもとかかわり合って、子どものことばを増やしながらか親子のきずなを深めましょう
- ③ 地域のイベントや行事に参加するなど、いろいろな体験の中で子どもに自信をつけさせましょう
- ④ 外国人コミュニティの集まりを活用するなど、子どもに母語を使う機会を与えましょう
- ⑤ 親自身が自分たちの文化やルーツに誇りを持ちましょう

家族全員がこれらのことを理解して、一緒に子育てに取り組めば、子どものことばは育ちやすくなります。そして、子どもがスムーズに日本語を習得することにつながります。

しっかりと言語を身につけさせれば、子どもの生きる力となり、バイリンガルとしての活躍も期待できます。

2つ以上の言語が習得できる環境を大切にして子どもを育てましょう。

# 実施結果

## 1 NPO法人みらい実施@知立市

### (1) 全体スケジュール

	日時・場所	テ　－　マ	参加親子数
(1)	平成29年8月26日(土) 10時30分～13時00分 UR知立団地集会所ABホール	「リラックスヨガ & おはなし会」	10組
(2)	平成29年9月8日(金) 10時15分～11時30分 昭和児童センター	「乳幼児親子教室に参加しよう」	8組
(3)	平成29年9月23日(土) 10時30分～13時00分 UR知立団地集会所親和室	「エプロンシアター& 子どもがいる家庭の防災」	10組
(4)	平成29年10月28日(土) 10時30分～13時00分 UR知立団地集会所親和室	「親子ふれあい遊び&子どもと病気」	15組
(5)	平成29年11月25日(土) 10時30分～13時00分 UR知立団地集会所親和室	「ベビーマッサージ& 子どものことばどうする？」	13組
(6)	平成29年12月16日(土) 10時30分～13時00分 UR知立団地集会所親和室	「おもちゃ広場&子どもと遊び」	11組
(7)	平成30年1月27日(土) 10時30分～13時00分 UR知立団地集会所親和室	「絵本の読み聞かせ&子どもと食事」	14組

### (2) 参加者募集方法

- ①Facebook を活用した。スマートフォンの小さい画面でも、分かりやすい情報となるよう、各回ごとにチラシを作成・発信した。チラシは日本語のほか、ポルトガル語と英語に翻訳した。
- ②保健センターの協力を得て、健診の際や、赤ちゃん訪問などで、保健師さんや通訳さんから、外国人保護者へ直接声かけをしていただいた。
- ③チラシを外国人児童が多く通う保育園、幼稚園、小学校にて配布していただいた。また、市役所の外国人相談窓口や知立市多文化共生センターに設置していただいた。
- ④みらいJ r. スタッフから、直接外国人保護者へ声かけをした。

### (3) 各回報告

#### 第1回「リラックスヨガ & おはなし会」

##### ア 参加者内訳（保護者の母語別）

ポルトガル語4組、スペイン語4組、フィリピン語2組

##### イ 実施内容

	内 容	活動内容
10:30	会場案内、準備	ヨガの準備等
10:40	自己紹介	
10:45	ヨガ	親はヨガに参加をする。子どもは同室にあるおもちゃで遊んだり、親のところに行ったり思い思いに過ごす。スタッフが子どもの遊びを見守る。
11:45	軽食、交流会	親子で軽食をとりながら、参加者同士、またスタッフと参加者の交流を図る。
12:30	おはなし会	育児をする上で困っていることや悩み等を話し合う。
13:00	片づけ 解散	

##### ウ 目的

子育て中の親に人気の高いヨガを行い、気軽に参加してもらおう。ヨガを通して体だけでなく、心もほぐしてもらい、後半のおはなし会を意見が出しやすい和やかな雰囲気で行進して、参加者が子育てをする上で、感じていること、困っていることを把握・共有する。

##### エ うまくいったこと/いかなかったこと、苦労したこと

- ・ヨガに興味があり、初めて参加された方もいて、新たな参加者との出会いの場となった。
- ・軽食をとりながら参加者同士が談笑する姿が見受けられ、参加者がつながる場となった。
- ・子どもたちが同室で遊んでいたため、リラックスというよりもぎやかなヨガとなったが、参加者の満足度は高く、子どもたちも思い思いに遊ぶことができ、終始和やかな雰囲気で行うことができた。

##### オ 参加者の反応

「ずっとヨガをしたいと思っていたので、できてよかった。」「またやってほしい」という声があがるなど、参加者の満足度が高かった。

おはなし会では、「病院で男の子のおちんちんをきれいに洗うように指導されたが、子どもがとても嫌がる。どうすればいいか。」「仕事をやめて内職をしようかと思う。どうやって内職の仕事を探せばいいか。」「幼稚園と保育園はどう違うのか。申し込んだらすぐに入れるのか。」「兄弟同じ保育園に入れることはできるのか」といった質問があった。

## 第2回「乳幼児親子教室に参加しよう」

### ア 参加者内訳（保護者の母語別）

ポルトガル語4組、スペイン語1組、フィリピン語2組、ベトナム語1組

### イ 実施内容

	内 容	活動内容
10:00	集会所前集合	参加者で集まって、地域の乳幼児親子教室へ行く（集合場所から徒歩1分未満）。
10:15	昭和児童センター到着	用紙に名前を書いて入室していく流れを、説明を聞きながら体験する。
10:30	乳幼児親子教室アイアイ参加	一般の参加者とともに、乳幼児親子教室に参加する。
11:10	昭和児童センター長のお話 質疑応答	施設についての説明、子どもの発達についてのお話を聞き、幼稚園や保育園に関することを中心とした質疑応答を行う。
11:40	解散	

### ウ 目的

地域の子育て支援に関する社会資源の一つである児童センターを知り、センターで開催されている乳幼児親子教室に実際に参加することで、地域の子育て支援サービスの活用につなげる。施設を利用する上で必要な日本語を学ぶ。また、幼稚園、保育園申込み前のこの時期に、知っておくと良い情報を伝える。

### エ うまくいったこと/いかなかったこと、苦労したこと

- ・参加者が昭和児童センターについて知ることができた。また、施設の職員にとっても、施設の活動が外国人住民に知られていないことを知る機会となった。
- ・幼稚園や保育園について参加者の疑問に答える場となった。次年度の入園を希望している参加者もあり、入園申込み前のタイミングに開催できたことで、必要な情報を必要な時期に伝えることができた。
- ・普段家庭で過ごしている子どもにとって、集団の遊びを体験する場となった。
- ・施設を利用する上でのきまり（飲食禁止など）を親子で学ぶ場となった。
- ・遊戯室が広いため、子どもたちがはしゃいで走り回ってしまった。施設の保育士の日本語の指示を親が理解できない場面もあった。一度だけでなく回数を重ねていく必要性を感じた。回数を重ね、きまりや日本語に慣れていくことで、入園の準備にもつながると考える。
- ・保護者が個人的な悩みを打ち明けられる場となった。

### オ 参加者の反応

乳幼児親子教室でリズム遊び、手遊び、絵本の読み聞かせを親子で楽しんでいる様子が見られ、参加者から「楽しかった」という感想が聞かれた。児童センターについては、「近所でありながら、施設について全く知らなかった」という感想もあった。このサークルをきっかけに、ママ友同士で時間を決めて施設を利用するようになった親子もいる。また、「子どものために参加をしたいと思っても、自分一人が外国人だと不安を感じる。みんなで行くと参加しやすいと思う」という声が聞かれた。

### 第3回「エプロンシアター＆子どもがいる家庭の防災」

#### ア 参加者内訳（保護者の母語別）

ポルトガル語4組、スペイン語2組、フィリピン語2組、ベトナム語1組、中国語1組

#### イ 実施内容

	内 容	活動内容
10:30	自己紹介 新聞紙でスリッパ作り	親は新聞紙でスリッパを作る。子どもはおもちゃで遊ぶなど思い思いに過ごす。
10:50	テープシアター	保育士の講師によるテープシアターや手遊び、絵本の読み聞かせ等を親子で楽しむ。
11:20	子どもがいる家庭の防災	知立市安心安全課の職員を講師にお招きし、クイズ形式で防災について考える。
12:15	非常食の試食 軽食をとりながら交流 非常持ち出し袋の紹介	実際にアルファ米などの非常食を試食したり、非常持ち出し袋を見て、理解を深める。軽食をとりながら参加者同士交流をする。
13:00	解散	

#### ウ 目的

子どもたちが大好きなテープシアターを親子で楽しむ。また、小さい子どもがいる家庭の防災について、地震が起こったら、どう子どもの命を守るのか、日頃から何を備えておけば良いのかを学ぶとともに、アルファ米などの非常食を実際に食べてもらい理解を深める。

#### エ うまくいったこと/いかなかったこと、苦労したこと

- ポルトガル語圏、スペイン語圏の参加者には、ポルトガル語の通訳一人では対応しきれない場面があった。言葉が分かる参加者同士で助け合う姿がみられた。
- 防災について、少し内容が難しい場面もあったが、最後まで理解しようとする参加者の姿がみられた。
- 食事の前に、流しの前に並んで順番に親子で手を洗うことができおり、食事前の手洗い行動が習慣化しつつある。
- みんなが揃うまで食べ始めるのを待つよう子どもに話す親の姿がみられ、サークルの活動の流れやルールの定着がみられた。
- 食事の用意や、通訳のいない言語の参加者へのフォロー等でスタッフの手がまわりきらなかった。保護者が防災の話真剣に聞く間、子どもたちを見る大人の目が少なくなってしまう。

#### オ 参加者の反応

非常食について「いろいろな非常食を試食できてよかった。」「とてもおいしかった。」という声があった。また「便利な防災グッズを知ることができてよかった。」という感想も聞かれた。安心安全課の防災クイズで、地震が起きたら、「笛と水とどちらを持っていったらいいか。」「まずガスを止めた方がいいか机の下にもぐった方がいいか、どちらがいいか。」などの具体的な質問を通して、よりよく理解することができたという声もあった。

## 第4回「親子ふれあい遊び&子どもと病気」

### ア 参加者内訳（保護者の母語別）

ポルトガル語6組、スペイン語4組、フィリピン語3組、中国語2組

### イ 実施内容

	内 容	活動内容
10:30	自己紹介	円になって座り、自己紹介をする。
10:35	親子ふれあい遊び	保育士らによる親子ふれあい遊び（お手玉、童謡など）を楽しむ。
11:05	ハロウィンの工作	みらいJr.スタッフによるハロウィンの工作（帽子づくり）を親子で楽しむ。
11:30	おはなし会 「子どもと病気」	子どもと病気について、講師の話を聞き、子どもの病気について知識を深める。また、参加者の悩みや疑問にアドバイスをいただく。
12:15	軽食をとりながら交流	軽食をとりながら、参加者同士交流する。
13:00	解散	

### ウ 目的

地域で活躍する保育士から親子で楽しめるふれあい遊びを教わる。また、体調を崩しやすい子どもが増えてくるこの時期に、講師から子どもと病気について学ぶとともに、子どもが体調を崩したときの対応についてもアドバイスをいただく。

### エ うまくいったこと/いかなかったこと、苦労したこと

- ・市の保健センター、市内の外国人園児の多い保育園、幼稚園、小学校にてチラシ配布の協力を得ることができた。また、市役所の外国人相談窓口、多文化共生センターにおいても、チラシを設置していただいた。SNSを活用した広報や参加者同士の声かけもあり、多くの親子に参加してもらうことができた。
- ・お手玉や童歌など、日本で親しまれている遊びへの参加者の反応がとてもよく、楽しむことができた。日本の遊びや童謡の良さを味わうことができた。
- ・ハロウィンの工作では参加者が熱中して取り組むことができ、季節を感じながら参加者同士で楽しむ時間となった。
- ・お話し会では、専門家の先生から話を聞くことができ、保護者の満足度が高かった。保護者が知っておくとよい日本語についても触れる予定であったが、時間がなく扱うことができなかった。
- ・多くの参加者に参加してもらえたが、気が付かないうちに帰ってしまった参加者もいた。人数が多くなるほど、個別に声をかけたりフォローをすることが難しくなる。

### オ 参加者の反応

「子どもが体調を崩しやすい時期なので、話が聞きたくて参加した。」「子どもの便秘について相談できてよかった。」「専門家の先生のお話が聞けてよかった。」「大きな声で分かりやすく説明してもらえてよかった。」などの声をいただいた。一方、「普段かかるお医者さんの医学用語がわかりにくい」など悩みの声もあった。

## 第5回「ベビーマッサージ・リズムあそび&子どものことばどうする？」

### ア 参加者内訳（保護者の母語別）

ポルトガル語9組、フィリピン語1組、ネパール語1組、ミャンマー語2組

### イ 実施内容

	内 容	活動内容
10:30	準備・談笑	参加者が集まり、お互いに自己紹介をする。
10:45	ベビーマッサージ	親子でベビーマッサージをする。おもちゃで遊ぶ子どももおり、子どもの様子に合わせて参加。
11:25	リズム遊び	みらいJr.によく参加しているママによる歌とリズム遊びを参加者で楽しむ。
11:35	おはなし会 「子どものことばどうする？」	ことばの役割や親が自信をもって話せる言語で子育てする大切さについて、一緒に考え、参加者の思いや悩みを共有する。
12:15	軽食をとりながら交流	軽食をとりながら、参加者同士交流する。
13:00	解散	

### ウ 目的

人気の高いベビーマッサージを行い、親子でスキンシップをとりながら心地よい時間を過ごす。ことばの役割や親が自信をもって話せる言語で子育てをする大切さについて、一緒に考え、参加者の思いや悩みを共有する。また、サークル参加者の主体的な活動参加を促す。

### エ うまくいったこと/いかなかったこと、苦労したこと

- ・保護者の主体性が生まれており、リズム遊びは日頃参加している保護者が主体となった。
- ・おはなし会では、参加者が講師の話をととても真剣に聞いていた。軽食の時間に保護者同士がそれぞれの家庭で使用している言語や自分の考えについて話し合っている姿がみられた。
- ・今回の参加者の中には、「ここは日本だから」と、子どもが理解できないかつ親自身も得意ではない日本語を家庭で使おうとしていた保護者もおり、おはなし会を通して、「家庭言語を母語にしたいと思います。」という感想がきかれた。
- ・保護者がおはなし会の講師に対して好印象をもち、信頼する姿がみられた。子どもが小学校に入学するとき、こうした信頼の積み重ねは保護者の警戒心を払拭することにつながる。
- ・当団体の学習支援卒業生の高校生や大学生、学習中の中学生が、託児ボランティアとして加わった。中には保育士を志望している学生もおり、自主的に活動を手伝ってくれた。
- ・言葉の違う参加者同士の交流があまり行われなかった。次回の課題としたい。

### オ 参加者の反応

ベビーマッサージについて「とてもよかった。もっと知りたい。」という意見があった。また、おはなし会については、「とてもわかりやすかった」「講師の先生が素晴らしかった。自分の子どももこんな先生に教えてもらいたい。」「言語について他の保護者も自分と同じ悩みを持っていることが分かってよかった」「これからは家庭で母語を使いたい。」などの感想が聞かれた。



## 第6回「おもちゃ広場・たのしいあそび&おはなし」

### ア 参加者内訳（保護者の母語別）

ポルトガル語8組、スペイン語1組、フィリピン語1組、ネパール語1組

### イ 実施内容

	内 容	活動内容
10:30	準備・談笑	参加者が集まり、自己紹介をする。
10:30	おもちゃ広場	親子が一緒におもちゃで遊ぶ。
11:40	おはなし会 「子どもとあそび」	子どもと遊びについて、おもちゃコンサルタントによる話をきく。
11:35	楽しい遊び 「リズム遊び&ピニャータ」	みらいJr.スタッフと、よく参加しているママによるリズム遊び、ピニャータを参加者で楽しむ。
12:15	軽食をとりながら交流	軽食をとりながら、参加者同士交流する。
13:00	解散	

### ウ 目的

様々な種類のおもちゃを通して、親子で楽しく遊んだり、参加者同士の交流を図るとともに、子どもの遊びやおもちゃについて、おもちゃコンサルタントからアドバイスをもらい、親としてできることを考える。また、サークル参加者の主体的な活動参加を促す。

### エ うまくいったこと/いかなかったこと、苦労したこと

- ・おもちゃコンサルタントさんとの通訳についての打ち合わせが不十分だった。通訳が入る間がないまま話が進んでしまったので、冒頭の通訳が不十分になってしまった。
- ・今回もリズム遊びの一つを外国人保護者が主体となって行い、また、ピニャータの一つを外国人保護者が用意してくれた。参加者が主体となる雰囲気生まれてきている。
- ・ピニャータの歌（本来はスペイン語）で、1から5の数を数えるとき、いろいろな国の言葉で数えたのがよかった。ネパール語だけ間に合わなかった。

### オ 参加者の反応

夜勤明けのお母さんも子どもをつれて参加してくれたり、「授乳があるので、先に帰るが、本当はもっと残りたい。」と言う声があがるなど、参加者は楽しんでいる印象だった。サークル終了後も、余韻に浸り、なかなか帰らず、保護者同士で話している様子がみられた。また、「おもちゃコンサルタントの方の“家庭にあるおもちゃは限られているので、子育て支援センターなど違う場所に行き、おもちゃで遊ばせると、子どもの違う姿が発見できる”という話がよかった。」「子どもが自然にもっている、“できる”“わかる”ようになりたいという気持ちを大切にしていきたいと思った。」などの感想も聞かれた。

## 第7回「絵本の読み聞かせ&子どもと食事」

### ア 参加者内訳（保護者の母語別）

ポルトガル語 9 組、フィリピン語 4 組、ベトナム語 1 組

### イ 実施内容

	内 容	参加者の活動
10:30	準備・談笑	参加者が集まり、自己紹介をする。
10:30	絵本の読み聞かせ	絵本の読み聞かせについて、スタッフの話聞く。 参加者それぞれが絵本を手に取り楽しむ。 参加者が母語の絵本の読み聞かせをする。
11:40	楽しい遊び	みらい Jr.スタッフと常連の参加者が中心となり、手遊び、福笑い、リズム遊びを楽しむ。
11:35	おはなし会 「子どもと食」	保健師から子どもの食について話を聞く。 悩みや疑問を相談する。
12:15	三角おにぎりづくりの後、フィリピン料理の軽食をとりながら交流	三角のおにぎりの作り方を学ぶ。 軽食をとりながら、参加者同士交流する。
13:00	解散	

### ウ 目的

絵本の読み聞かせの大切さについて学び、親子で絵本に親しむとともに、親子で楽しく遊んだり、参加者同士の交流を図る。また、子どもの食に関する正しい知識を得るとともに、悩みや疑問を相談する。さらに、三角のおにぎりの作り方を学んだり、参加者の国の料理を食し、国籍を超えた参加者の交流を行う。

### エ うまくいったこと/いかなかったこと、苦労したこと

- ・絵本の読み聞かせについて話をする際、冒頭にスタッフが読み聞かせの実践をしてみせたのが分かりやすかった。
- ・参加者のママたちが 3 カ国語で絵本の読み聞かせをしてくれた。参加者が主体となる場面が増えている。
- ・違う言語での読み聞かせを聞いて、参加者同士の国籍を超えた会話が生まれた。
- ・7ヶ国語で絵本を用意した。子どもたちは言語を気にしないで、絵本を手にとり楽しんでいた。保護者はいろいろな言語の絵本に関心を持っていた。母語の絵本で子どもに読み聞かせをする姿も見られた。
- ・保健師の話がためになった。子どもの食に限らず、保健師に育児相談をする親もいた。
- ・保護者が話を聞く場所と子どもが過ごす場所が同じだったためか、途中で飽きる子がいた。
- ・保健師さんの話では、お話の全てを通訳しきれなかった。
- ・今回はフィリピン料理の軽食を用意した。フィリピン人のママたちが積極的に準備してくれ、料理の名前なども教えてくれた。いつもより積極的な姿がみられた。
- ・後半特にバタバタしてしまった。三角おにぎりをみんなで一緒に作れなかった。

### オ 参加者の反応

「本がおもしろかった」、「どこで本が買えるのか教えてほしい。」など、本に関心をもってくれる参加者がいた。「友達ができてよかった」という保護者も多かった。また、「フィリピン料理がおいしかった。食べたことがないので食べられてよかった。他の国の料理も食べてみたい。」との声もあった。

## (4) 事業を実施する上でのポイントや課題

### ①親子で楽しめる活動を取り入れた。

参加者にとっていかに居心地のよい場所となるかが、サークルの鍵となる。仕事をしている保護者も参加しやすいようサークルを土曜日に行った。楽しく居心地のよい場所でなければ、休日にサークルに足を運ぶことにつながらないと考え、サークルの最初に親子で楽しめる活動を取り入れるようにした。親子で楽しくコミュニケーションをとる時間となっただけでなく、子ども同士、保護者同士の交流にもつながった。参加者からも大変好評だった。

### ②外国人スタッフに通訳だけでなく、積極的に活動に参加してもらった。

日本語に自信がない外国人保護者にとって、外国人スタッフの存在は大きい。参加者からの信頼が厚く、外国人スタッフがいるから参加する、外国人スタッフに誘われたから参加したという親子が多かった。外国人スタッフが中心となって働きかけをしたことで、参加者が主体となる活動を実現することもできた。

### ③参加者が主体となる活動を取り入れた。

外国人スタッフが中心となって声をかけ、参加者が主体となる活動を取り入れたことで、受け身だった参加者が自然と協力する雰囲気生まれ、主体的な参加、参加者同士の交流につながった。また、自国の文化に誇りを持ち、お互いの文化を尊重する機会ともなった。外国人保護者のエンパワメントを促進していくきっかけとなることが期待される。

### ④様々な言語の参加者が交流できるよう配慮した。

同じ言語同士で参加者が固まりやすい傾向にあり、ベトナム語やネパール語などサークルの中でマイノリティーになりやすい言語の参加者も楽しく参加できるよう、参加者同士がいかに交流できるかが今回のサークルの課題となった。ブラジル人ママが主体となったリズム遊び、多言語の絵本の読み聞かせや、フィリピン料理の試食などを通して、言語の異なる参加者同士の交流が生まれた。また、全ての言語に通訳が対応できないため、日本人スタッフが隣でやさしい日本語に言い換える、講師にやさしい日本語で話していただくなどの配慮をした。

### ⑤乳幼児期の子育てに必要な正しい育児情報を提供した。

乳幼児期の子育てに必要な、日本における幼稚園と保育園の違いなど制度に関する情報や健康、防災などの情報提供を行った。正しい育児情報が提供できるよう外部講師を招いた。どれも保護者の関心は高く、満足度も高かった。

### ⑥参加しやすいよう参加費無料、申込みを不要とした。

乳幼児を持つ保護者は、子どもの体調や機嫌に左右され、思うように外出できないことがあるため、参加者の負担とならないよう事前申し込みは不要とした。サークルの中では、参加者が我が子の泣き声やわがままに気を遣いすぎることなく、スタッフや参加者同士、声を掛け合いながら、一緒に子育てをしていく雰囲気を作ることを目指しているが、子どもがぐずったり、言うことを聞けなかったりすると帰ってしまう参加者がいた。参加者が多くなると、こうした参加者や、初参加の親子へのフォローが行き届かなくなりやすいという課題が生じた。

### ⑦参加者が交流できる時間を設けた。

参加者によって、抱えている育児の悩みは違うため、テーマを決めた育児情報だけでは、必ずしも参加者の悩みを払拭できるとはいえない。軽食の時間を設けて、参加者が交流できる時間を設けた。軽食の時間やサークル終了後が、育児仲間を作る時間、子育ての悩みを打ち明け相談する時間となった。

### ⑧地域や行政、大学等の協力を得た。

保健師や保育士、小学校教諭、市職員、大学看護学部教員らを講師として迎え、外国人保護者の疑問や相談に直接答えていただくことができた。乳幼児親子教室に参加したり、市の関係部署職員を講師として迎えたり、また広報の協力を得たことで、サークルの周知を図ることができた。サークルの必要性を訴えるきっかけとしたい。

## (5) その他、本事業の実施にあたりきづいたことなど

言語が異なる参加者同士の交流を促進するため、外国人の保護者が発案したリズム遊びを取り入れた。このリズム遊びを通して外国人保護者が主体となる場面を創れたことが、参加者同士の交流につながっただけでなく、サポートする側（実施者）とサポートされる側（参加者）の関係から、参加者と共に創るサークルへ発展し、より居心地のよい雰囲気を生んだ。

このサークルの中で、子どものために日本語で育てた方がよいのか悩んでいる保護者が、得意な言語で子育てをする大切さを知り、ほっとする姿がみられた。一方、現在も、日本語が分からない園児の保護者にどうアドバイスをすればよいか悩む保育士や幼稚園教諭がいる。今後も、得意な言語で子育てをする大切さを、保護者からの信頼が厚い保健師や保育士、幼稚園教諭等の専門職の方々の協力を得て、サークル内にとどまらず、広く外国人保護者に情報提供していく必要性を感じている。

多文化子育てサークルを通して、外国人保護者が地域とつながり、子育てしていくことの大切さを改めて感じた。同時に、多文化子育てサークルが外国人保護者のみを対象とするものではなく、日本人親子も巻き込んだサークルに展開していく必要性を感じた。日本人保護者と育児仲間となり、正しい情報を得ていくことが、外国人保護者の孤立化を防ぎ、地域とのつながりを生み出し、入園入学と子どもが成長していくに伴い、心強い仲間となると考えるからである。実際にサークルの中でも、日本人の友達ができたことをとても喜んでいる姿がみられた。

## (6) リーフレットの作成

育児情報を提供する手助けとなるよう、昨年度に作成した「子どものことば」に関するリーフレットに加え、5種類のリーフレットを作成した。

リーフレットのタイトルは以下の通り。

- ①幼稚園と保育園
- ②子どもがいる家庭の防災
- ③子どもが元気に育つための生活習慣
- ④子どもの病気
- ⑤こどものことばどうする？（昨年度愛知県事業で作成）
- ⑥みらいJr. の活動（行政を含め関係者や地域の方に、活動の周知を図るための活動紹介）

平成 29 年 10 月 28 日（土曜日）NPO 法人みらいが実施した第 3 回「多文化子育てサークル」で、参加者自身が作ったハロウィン帽をかぶって撮った集合写真



## 2 NPO法人トルシーダ実施@豊田市

### (1) 全体スケジュール

	日時・場所	テ　　マ	参加親子数
(1)	平成 29 年 9 月 30 日 (土) 午後 2 時～4 時 とよた市民活動センター	「聞こう、話そう各国子育て事情」	20 組
(2)	平成 29 年 10 月 14 日 (土) 午後 2 時～4 時 とよた市民活動センター	「図書館へ行こう」	9 組
(3)	平成 29 年 10 月 28 日 (土) 午後 2 時～4 時 保見交流館	「子どもと一緒におやつ作り」	27 組
(4)	平成 29 年 11 月 18 日 (土) 午後 2 時～4 時 とよた市民活動センター	「幼児期の数の勉強について子どもと一緒に考えよう」	12 組
(5)	平成 29 年 12 月 16 日 (土) 午後 2 時～4 時 とよた市民活動センター	「子どもと一緒に楽しむクリスマス交流会」	37 組
(6)	平成 30 年 1 月 20 日 (土) 午後 2 時～4 時 保見交流館	「子ども健康相談会」	8 組
(7)	平成 30 年 2 月 3 日 (土) 午後 2 時～4 時 とよた市民活動センター	「ふりかえり『もっと知りたいこと』」	19 組

### (2) 参加者募集方法

#### ①チラシの配布

- ・昨年度の参加者、トルシーダの日本語教室の受講者にチラシを配布した。昨年度、参加者より、「不定期な開催で予定が立てにくい」との声があったので、今年度は2回目以降の6回の予定をまとめて記載したチラシを配布した。
- ・豊田市役所保育課を通して、市内の子ども園、幼稚園へチラシを配布した。
- ・豊田市役所子ども家庭課、保育課、国際まちづくり推進課、ブラジル人学校、豊田市国際交流協会、とよた市民活動センター、みよし市民活動センター、保見交流館にチラシ設置を依頼した。

#### ②メール

参加者メーリングリストを作り、毎回参加の案内をした。

#### ③フェイスブック

サークルの様子をフェイスブックで発信した。

#### ④口コミ

日本語教室の参加者、公園で見かけた外国人等に直接参加を呼び掛けた。

### (3) 各回詳細

#### 第1回「子育てサークルオリエンテーション ～各国子育て事情～」

##### ア 参加者内訳（保護者の母語別）

ポルトガル語 9組、フィリピン語 5組、中国語 4組、韓国語 2組

##### イ 実施内容

	内 容	内容活動
14:00	会場案内	
14:15	導入	サークル趣旨説明及び主催者の愛知県からのあいさつを行う。
14:30	自己紹介	
14:45	日本の子育てについて	スタッフが自分の子育てについて「どんな子どもになってほしいか」「どんなことに力を注いだか」などを説明したのち、「おめでとう訪問」について説明をする。
15:00	ワークショップ	母国の子育てなどについての話し合いをする。テーマは、①ことば ②食べ物（おやつ）③遊び④日本人に聞きたいこと
15:30	発表	参加者が日本語でワークショップの話し合い結果を発表し、それに対しスタッフからアドバイスをする。
16:00	終了	

##### ウ 目的

参加者に多文化子育てサークルの趣旨を理解してもらい、積極的な参加を促すとともに、参加者同士の仲間意識づくりをする。また参加者の日本での子育てに対する不安や悩みを聞く。

##### エ うまくいったこと/いかなかったこと、苦労したこと

- ・バイリンガルスタッフの口コミと、SNSでの広報により、予想以上の参加者があった。昨年からの参加者も数名いてサークル継続の効果があつた。
- ・最初に全員日本語で自己紹介をしたことで、子育てサークルとして雰囲気生まれた
- ・身近な話から親和性を感じてもらおうと、日本人スタッフの子育て経験を話した。後のワークショップでいろいろな意見が出るはずみとなった。
- ・バイリンガルスタッフとの打ち合わせの中で「おめでとう訪問」は、「自分の子育てについて非難をされるようで気が重い。断る外国人も少なくない。」という話が出た。子育ての不安を解消するためという「おめでとう訪問」の目的を伝えるために情報提供を行った。また、打ち合わせの段階で「おめでとう訪問」について行政担当者の話を聞くことで、チラシを配布していただけるなど関係ができた。
- ・ワークショップはブラジルチーム、フィリピンチーム、アジア（中国・韓国）チームに分かれて行った。「日本人に聞きたいこと」というテーマを設けたことで、夜間祝祭日に子どもが病気になったときはどうしたらいいか等、外国人に伝わっていない情報が分かった。

##### オ 参加者の反応

ワークショップでは、自分や日本人の子育てのこと等活発に意見が出た。「日本語が分かってても日本人のママたちとの付き合いは難しい。」「家で母語を使うことができない。」「子どもがほかの子となじめなくて不安（言葉ではなく、コミュニケーションの問題）。」「自分がママ友のなかに今一つ入っていけないことで子どもも同じような状態になっていると思い、不安。」「小学校に入るが、ママ友の中に小学生を持つ人がいなくて、自分は日本の学校も経験がないしどんな様子かわからず不安。先輩ママ(小学校経験者)の話を知りたい。」「小学校に通っている子どもの悩みを相談したい。」などの悩み・意見があつた。

## 第2回「図書館へ行こう」

### ア 参加者内訳（保護者の母語別）

ポルトガル語 3 組、フィリピン語 2 組、韓国語 1 組、マレー語 3 組

### イ 実施内容

	内 容	活動内容
13:45	受付、準備	図書館利用カード発行申請書を記入する。
14:20	移動	豊田市中央図書館へ徒歩で移動する。
14:45	図書館訪問	館長さんより ①図書館についての説明 ②絵本の読み聞かせ ③折り紙の本の紹介と折り紙遊び ④日本語が分からない子どもたちのための本選びのポイント を御説明いただいた後、 館長さんの御協力を得ながら、子どもと一緒に本を選ぶ。
15:45	移動、振り返り	市民活動センターへ移動し、活動の振り返りと次回の案内。
16:00	終了	

### ウ 目的

図書館の利用について案内するとともに、子どもたちのための本選びについて専門家に話を聞く。

### エ うまくいったこと/いかなかったこと、苦労したこと

- ・ 図書館の館長さんに豊田市中央図書館について話を聞き、図書館の利用を促した。事前に子どもたちの日本語のレベルがバラバラであること、年齢も 4, 5 歳～10 歳位までと幅があることを伝えておいたことで、みんなが楽しめる本を選定し読み聞かせをしてくださった。
- ・ 館長さんから日本語が分からなくても楽しめる本の選び方を教えていただいた。お話の内容は以下のとおり。
  - ・ 色がはっきりしている絵本を選ぶといい。
  - ・ 絵で数字や数が分かるものものは、言葉がなくても理解できる。
  - ・ わかりやすくかいてある絵、見てすぐ何かわかる絵の絵本を選ぶ。
  - ・ クイズ形式になっているのも面白い。
  - ・ アンソニーブラウンの絵本はおすすめ。
- ・ 図書館利用カードは参加者の多くがすでに持ってあり、住所の練習を予定していたが不要なかった。

### オ 参加者の反応

館長さんからの読み聞かせは、大人も含めて参加者全員が聞き入っていた。また、図書館の説明と読み聞かせの後、子どもコーナーで本を選んだが、どの子どもも自分の好きな本を選び、どの家庭も上限いっぱいの本を借りていた。保護者の中には、「これから学校へ行く子どもたちにとって日本語は大切で、日本語を覚えるためにも本をたくさん読ませたい」という声があった。全員が母語（外国語）の本ではなく、日本語の本を借りていた。

### カ その他

申し込みの電話で、「来日したばかりだが、待機児童で幼稚園に入れず困っている」という話があった。保育課にチラシへ配布を依頼した際に、家から少し距離はあるが空きのある子ども園の情報をもらい、参加者に伝えた。早速申し込みに行くとのことだった。また、来日したばかりのマレーシア人と、中国語の外国人スタッフの家がとても近いことが分かり、この機会にお互いを紹介した。子育てのことを話せる近所付き合いができるといい。

## 第3回「子どもと一緒におやつ作り」

### ア 参加者内訳（保護者の母語別）

ポルトガル語 16 組、フィリピン語 3 組、中国語 6 組、スペイン語 2 組

### イ 実施内容

	内 容	活動内容
13:45	受付	子どもは託児の部屋に案内、大人は調理室へ案内する。
14:00	導入	当日の流れとレシピの説明（ブリガデイロ、わんたん、蒸しパン、ギナタアン ビロビロ）をし、言語ごとに調理のグループに分かれる。
14:15	調理	大人が中心となり、グループごとに母国のおやつを調理した。子どもも危険がない段階で調理室に移動し調理に参加した（ブリガデイロを丸めた）。
15:00	大人試食	参加者が母国のおやつについて説明する（どんな時に食べるかなど）。
15:40	講座	栄養士の先生から、「栄養」と「おやつ」について説明していただいた後、市販の子ども用お菓子を試食する。
16:00	子ども試食	子どもが調理室に移動しおやつを試食する
16:30	振り返りと次回の案内	当日の振り返りと、今後のサークルについて説明する。

### ウ 目的

いろいろな国の食べ物や食文化を知るとともに、栄養についての知識や子どもの体にいいおやつについて情報提供をする。

### エ うまくいったこと/いかなかったこと、苦労したこと

- ・保見交流館の定員は 20 名のところ、大人、子どもを合わせ 45 人の参加者があり、急きよ子どもは別室（多目的ホール）で託児を行うことにした。
- ・調理室以外での飲食は禁止されているため、子どもは順番に調理室に入り、ブリガデイロを丸めた。
- ・事前に打ち合わせを行い、ブラジルはブリガデイロ、フィリピンはギナタアン ビロビロ、中国はワンタンを作って紹介するということにした。どの国の参加者もレシピを用意する、食べ物について紹介するなど積極的であった。予定していなかったペルー人の参加があったが、ペルーのメニューの準備がなく、申し訳なかった。
- ・参加人数が多かったこともあり、時間かなり超過した。
- ・栄養士さんからは以下のようなお話しがあった
  - ・おやつには、本来神様に捧げていた貴重なお供え物としての性格のものと、食事の栄養を補うための日常的なものがある。今日の例で言えば、「パーティーといえばこれ」といわれるブリガデイロは特別な日の食べ物。チョコレートはおいしいがカロリーも高い。ワンタンやギナタアン ビロビロは、でんぷんや野菜といった食事を補う物。子どもはよく動くので、大人よりエネルギーが必要。おやつで上手にビタミン等の栄養を補うといい。ブリガデイロのようなおいしくてカロリーの高いおやつは数を制限するなど気を付けて食べるといい。」
  - ・飲み物（炭酸水やジュース）の約 10%は砂糖なので、気を付けて飲む。果汁 100%のジュースでも果糖という糖分が入っているので気をつけること。
  - ・日本ではおやつに旬のものを食べる。旬のものは安価で栄養価が高くおすすめ。
  - ・鬼まんじゅうは愛知県でよく食べられるおやつ。さつまいもを使っていて、ビタミンや繊維が取れる。



- ・おやつというテーマだったことからか、お菓子やジュースを持ってきた参加者も数名いた。
- ・栄養の話の後には全粒粉を使ったビスケットや、小魚アーモンド、油であげていない芋チップなど栄養を考えた市販のおやつを紹介して、試食した。
- ・終わってからもみんな楽しそうにおしゃべりしていて、少しずつ参加者の関係性ができてきていると感じた。

## オ 参加者の反応

「子どもと一緒に料理を作れてよかった。」「いろいろな国の食べ物が食べられて楽しかった。」「鬼まんじゅうは簡単にできておいしかった。ビタミンも取れていいと思う。」などの感想をいただいた。「ブラジル人の子どもはカロリーの高いブリガデイロを食べているのでエネルギーが余って止まらないのかも・・・(ブラジル人ママの感想)」という声もあった。今後の活動に関して、「お弁当教室を開いて欲しい。」という意見があった。

## カ その他

来日したばかりという参加者から、「日本語を勉強できる場所がないか」相談があった。すぐに入れる日本語教室はないが、参加者の中にこの人の家の近くに住む日本語上級者がいた。教えられないか聞くと「経験はないが考えてみる」とのことだった。コミュニティの中で助け合う関係ができていくことを期待する。



平成 29 年 10 月 28 日（土曜日）NPO 法人トルシーダが実施した第 3 回「多文化子育てサークル」のなかで行ったおやつづくりの様子

## 第4回「幼児期の数の勉強について子どもと一緒に考えよう」

ア 参加者内訳（保護者の母語別）  
ポルトガル語 8 組、中国語 4 組

### イ 実施内容

	内 容	活動内容
13:45	受付	言語別グループに分かれ、親子で着席する。
14:00	導入	当日の流れを説明したのち、保護者に対し、5～6歳までに必要な数の概念について説明する。りょう、数える、比べる、わかる、かたちの概念が必要であるといった話をする。
14:20	数遊び	親子で指やお菓子を数えるとともに、みかんの袋の数を比べたり、アバカス、算数セットで遊ぶ。また、1から10を日本語、ポルトガル語、中国語で数える。
14:40	ワークショップ	保護者が「家庭でどんな数遊びができるか」を話し合い発表。
15:20	すごろくづくり	親子の共同作業で、数のすごろくを作成する。
15:55	振り返りと次回の案内	当日の振り返りと、次回のサークルについて説明する。

### ウ 目的

数について、家でできるサポートがあることを知るとともに、楽しんで算数の勉強につなげる方法を参加者と共に考える。

### エ うまくいったこと/いかなかったこと、苦労したこと

- ・下は2歳、上は10歳の子どもたちが参加し、それぞれの子どもの年齢に合った遊びが必要で、焦点をどこに当てるかに苦労した。
- ・初めて「親子一緒に作業」を実施した。子育てが大変でイライラしているお母さんがいたが、飛び込みで初めて参加した人で、このサークルへ期待していることも分からず、上手に声掛けすることができなかった。

### オ 参加者の反応

ワークショップでは、「家でお皿を数える」、「お箸やスプーンの数比べる」という意見がたくさん出た。親子での工作は子どもの年齢によっては手伝いが必要だが、楽しそうにすごろくのボードを作っていた。保護者からは、「楽しかった。」「子どもと一緒に工作ができて良かった」などの感想が聞かれた一方、「小さい子ども（2歳）に2時間は長すぎる」という感想もあった。そのほか、「学校の算数で使われている日本語の勉強をしたい。」「学校へ入る前に家でしないといけなことがあることが分かったが、1年生になるまでに間に合うか、心配」といった意見もあった。

## 第5回「親子で楽しむクリスマス」

### ア 参加者内訳（保護者の母語別）

ポルトガル語 9 組、フィリピン語 7 組、中国語 20 組、ベトナム語 1 組

### イ 実施内容

	内 容	活動内容
13:45	受付	言語別グループに分かれ、親子で着席する。
14:00	導入	当日の流れを説明する。
14:20	「日本人家庭の冬の過ごし方」について情報提供	日本の「冬の遊び」「家族での過ごし方」「雪遊びができる場所」などについて地域の子育てサークル「グローバル豊田」スタッフから説明する。
14:40	国別に母国のお正月とクリスマスについて説明	参加者がプロジェクターを使用し、事前に作成・準備したスライド、写真、YouTube を見せながら発表する。
15:20	休憩	ブラジルのおやつ「パネトネ」、黒豆などを試食する。おみくじを配布しおみくじに記載されている順位ごとに景品を配る。
15:30	ワークショップ	粘土で工作をする。
15:50	日本人子育てサークル活動の紹介	地域の日本人の子育てサークル「森の幼稚園」の紹介を行う。
16:00	片付け、終了	

### ウ 目的

寒い季節の親子のふれ合いとして、冬の遊びを紹介する。また、母国のクリスマスやお正月を参加者が紹介し、主体的な参加を促し異なる国同士の交流や理解のきっかけにする。さらに、親子で粘土作品を作り、子どもと関わる機会にする。

### エ うまくいったこと/いかなかったこと、苦労したこと

- ・クリスマスは宗教色の強い行事だが、いろいろな文化の人たちが集うサークルで、宗教色を出してもいいのか、控えた方がいいのか悩ましかった。スタッフと話し合いそれぞれの国の文化という位置づけで紹介してもらうことにした。
- ・参加者が想定より多く、途中でマイクを借りるなど準備不足の面があった。
- ・いろいろな国の人たちとの交流をしながら実施している他の子育てサークルに、日本人の冬の過ごし方の情報提供を依頼した。実際に子育てサークルに関わっている日本人のお父さんの話を聞いたことはよかった。また、手作りのおみくじや折り紙のコマなどを参加者にプレゼントしていただいた。
- ・各国の発表準備は、トルシーダのスタッフと協力グループのメンバーに任せたが、できれば事前に全体で打ち合わせをする機会があるとよかった。趣旨についての共通理解があったので各国共に特徴のある発表ができた。
- ・参加の子どもたちの年齢の幅が広く、どんな年齢でも楽しめる内容にすることが難しい。発表を集中して聞ける時間も短いし、発表に参加する方法も工夫が必要。ワークショップの粘土細工はどの子も楽しんでた。
- ・粘土細工の見本を用意したが、子どもたちはそれぞれオリジナルで好きなものを作り、見本は必要なかった。
- ・会場を「クリスマス・お正月」のデコレーションで飾りたかったが、余裕がなかった。
- ・新聞販売店に寄付していただいた販促品がおみくじの景品として役にたった。

## オ 参加者の反応

「いろいろな国の話が聞けて良かった。」「いろいろな国のことが分かったし、違う国の人と知り合えてよかった。」「日本人と話ができてよかった。」「私の子どもはいつも学校で一人です。今日はブラジルの子どもたちと遊べてとても良かった。ブラジルのクリスマスの話や食べ物がよかった。」など、交流についての前向きな感想があった。また、「ブラジルのめずらしい飲み物（マンゴジュース）やお菓子（パネトーネ）は初めてだったので、とても良かった。」「おみくじの景品に中国で流行っている「小さなりんご」があって嬉しかった。」「子どもたちも発表に参加できてよかった。もっとこういう機会が欲しい。」「旭高原で雪遊びができる情報が聞けてよかった。」「日本人の子育てサークルの話は勉強になった。」といった声もあった。



平成 29 年 12 月 16 日（土曜日）NPO 法人トルシーダが実施した第 5 回「多文化子育てサークル」のなかで行った「日本人家庭の冬の過ごし方」について情報提供の様子

## 第6回「子ども健康相談会」

### ア 参加者内訳（保護者の母語別）

ポルトガル語5組、フィリピン語3組

### イ 実施内容

	内 容	活動内容
13:45	受付	言語別グループに分かれる。子どもは託児を行う。
14:00	導入	当日の流れ説明のあと講師紹介をする。 自己紹介シートを記入する。
14:15	自己紹介	参加者は記入した自己紹介シートを読んで自己紹介する。
14:30	看護師の先生のお話	「風邪をひかない（ひかせない）暮らし」をテーマに、看護師の先生からのお話を聞く。 消毒用アルコールジェルを配布する。
15:00	相談会（質疑応答）	子どもの健康についての不安や疑問についての質疑応答。
15:20	「あいち医療通訳システム」についての説明	愛知県職員から、「あいち医療通訳支援システム」を紹介する。
15:35	飲み物紹介、試飲	参加者が母国の風邪に効く飲み物を紹介し、全員で試飲する。
15:55	日本語で話してみよう	「肩を回します」「腕を振ります」など、簡単な日本語の指示に合わせて体を動かす。
16:00	片付け、終了	

### ウ 目的

インフルエンザの流行に備え、家庭で気を付けることや対策を学ぶとともに、子どもの健康について不安や疑問に思っていることを専門家（看護師）に聞く。また、参加者の国での風邪をひいたときの飲み物を紹介することで、仲間意識を醸成したり、子育てについて話し合ったりする機会を作る。

### エ うまくいったこと/いかなかったこと、苦労したこと

- ・開催がインフルエンザの蔓延時期に重なった。いつもの参加者の子どもさんのほとんどが、インフルエンザに罹っていて、参加者が少なかった。
- ・当初予定していた会場が定員20名の部屋で、5回目までの参加状況からみて、もっと広い会場が必要と判断した。そして、会場をとよた市民活動センター会議室から保見交流館ホールに変更した。チラシの訂正版も作り配布したが、結果的に参加者は少なく、会場変更の必要はなかった。
- ・あいち医療通訳支援システムについて知らない参加者もいて、情報提供の機会になった。

### オ 参加者の反応

「風邪をひかない飲み物は、地域や家庭により異なり、事前に子ども時代のことなど話し合えたのが楽しかった。子ども時代は病院など行かなかったことを思い出した。」「普段、外国人だから差別されていると思うことがたくさんあるが、日本人もいろいろあることが分かったし、そういうことが話せてよかった。」「中国のお茶はすごく健康に良さそう。」「といった参加者からの声があった。また、看護師の先生からも「ブラジル、中国の飲み物はそれぞれ、栄養価が高く、病気のときの飲み物として理にかなっている。」「といった話があった。なお、参加呼びかけの返信メールでは、「私の子どもは今二人ともインフルエンザです。このテーマはもっと早くしてほしかったです。遅いです。」「との意見もあった。

## 第7回「子育てサークルでもっと知りたいこと」

### ア 参加者内訳（保護者の母語別）

ポルトガル語 5組、フィリピン語 3組、中国語 8組、スペイン語 3組

### イ 実施内容

	内 容	活動内容
13:45	受付	言語別グループに分かれる。
14:00	導入	グループ内で自己紹介、サークルの趣旨説明、講師の紹介。
14:20	地域の子育てサークルの活動紹介など	子育てサークル「もりのようちえん」のスタッフからの活動紹介のあと、リズム遊びをしてもらう。
15:05	ワークショップ	「多文化子育てサークルでこんなことをしたい」というテーマでワークショップを行う。
15:25	発表	参加者が日本語でワークショップの話し合い結果を発表する。
15:40	フォトフレームづくり	第5回のサークルで撮影した写真を配布し、写真を入れるためのフォトフレームを親子で作成する。
16:30	片付け、終了	

### ウ 目的

日本人主催の子育てサークルについて意義や、目的、楽しめることなど話を聞くとともに、当事者としてこんな子育てサークルをしたいという話し合いをする。また、フォトフレームづくりを通しての親子のふれあいと、参加者同士の交流を図る。

### エ うまくいったこと/いかなかったこと、苦労したこと

- ・NPO 法人「森のようちえん」の説明は分かりやすく、リズム遊びは大人も子どもも一緒に盛り上がった。「森のようちえん」の代表は音楽家でリズム遊びでも、プロの力を感じた。
- ・ワークショップは言語別に分かれたが、こちらにテーブルファシリテーターの準備がなく、着地点がはっきり示せなかった。なお、ワークショップでは以下のような意見が出た。
  - ・子どもと一緒にゲームをしたり歌をうたったりできるサークルがいい
  - ・「お願いします」と言える子どもになってほしい。子どもの躰について話し合いたい
  - ・自分の子育てについて一人ひとり発表して、いろいろな立場の人と話し合いたい
  - ・「インフルエンザなので登園してはいけない」と言われても、どうして外へ出てはダメなのか分からない。理由をちゃんと説明してほしい。
  - ・もっといろいろな国の言葉を覚えたい（子どもの意見）。
  - ・いろいろな国の子どもたちと知り合って、遊んで楽しかった（子どもの意見）。
  - ・子育てサークルはモチベーションを高める取り組みだった。
  - ・日本語が分からないので困っている人がたくさんいる。特に、保育園や学校の行事は早めに案内がないと、仕事を休めないで困る。
  - ・イベントなども外国人向けに説明してほしい。
  - ・自分たちの言葉や文化、料理など、既に親の世代が知らないという状況になってきており、次の世代に伝えていくことの大切さを感じている。
  - ・自分たちの国のいいところを伝えないといけないけど、だんだん薄れてきている。
  - ・子どもは、日本語もポルトガル語でも上手く伝えられなくなってきている。

### オ 参加者の反応

「いろいろな国の人と知り合えて楽しかった。」「子どもが同じ保育園へ行っている保護者と知り合えた」等交流をとおしての感想のほか、「子どもたちと楽しく遊べた。」「写真がもらえて嬉しかった。」といった声もあった。また、「時間が短い。」という声もあった。

#### (4) 事業を実施する上でのポイントや課題

- ①子育てについて情報提供をすると共に、参加者が子育てサークルへ主体的に関われるよう、それぞれの国の子育てや、日本で子育てすることの不安や戸惑いを話し合い、仲間作りの場とした。参加者同士の自己紹介は、お互いに知り合うきっかけや、日本語を使う機会として有効だった。
- ②図書館長、栄養士、看護師等それぞれの専門家から情報提供をしていただいた。参加者は「どうしてそのことが必要なのか、大切なのか」という説明を分かりやすく聞くことができた。また、講師の皆さんにも外国人への情報提供の重要性を伝えることができた
- ③楽しい子育てサークルにするために、話を聞くだけではなく、子どもと一緒に遊んだり、工作をしたりする時間を設けた。
- ④「おやつ」「各国のクリスマス（お正月）」など、参加者がそれぞれの国について紹介する機会を設けた。保護者が出身の国について誇りを持って語る姿を子どもたちが見たり、子どもと出身の国について話をしたりする機会になった。サークルがきっかけで、地域の交流館で料理教室の講師を依頼された参加者もいた。
- ⑤多文化子育てサークルを実施する上で、言葉の問題だけではなく、サークルの企画、参加者募集等バイリンガルスタッフの存在は欠かせないが、参加者全ての言語に対応できる体制は難しい。
- ⑥ポルトガル語、中国語以外の参加者は少人数のグループになってしまい、居心地が悪くないか等の心配をしたが、結果的に韓国、ベトナム等は継続的な参加につながらなかった。少人数言語グループを作らないために、日本人参加者を募りつなぎ役となってもらう等の工夫をしていく必要を感じた。

#### (5) その他、本事業の実施にあたり気づいたことなど

今回、一番感じたことは外国人が感じている心の壁だった。例えば病院で外科的な処置をするときに子どもが怖がって泣き、何もしてもらえなかったことを「外国人だから」治療してもらえなかったと思っていると語った参加者がいた。

また、新生児の「おめでとう訪問」について、制度は知っていても「叱られそうで怖いので断る」という参加者が大半だった。イベントのために公共施設を借りようとしたが、外国人だから貸してもらえなかったという話もあった。他の外国人のマナーが悪いせいだと考え「ルールを守らない外国人はいるが、自分たちは違う。外国人をまとめて考えないで欲しい」との意見だった。しかし、話の内容から実際には貸出し規則に沿ってのことだと思われた。

これらのことは、日本語が分かる分からないに関わらず、詳しい説明がないままに行われていることに対し理由が分からず、制度やルールを押し付けられるような気持ちになり「外国人への差別」と感じているのではないかと思われた。

心の壁は日本人にもあり、解決にはつながらないが率直な話ができただことは成果であり、多文化子育てサークルが、情報提供や日本語学習のきっかけとなるだけでなく、日本人との相互理解や多文化の学びの場となる可能性を感じた。